

このたび菊川市議会副議長に立候補させていただきました倉部光世です。
副議長立候補表明の演説をさせていただきます。

新型コロナ禍、不安ばかりの現状の中、市民の政治に対する不信感は募るばかりです。今回の選挙で選ばれた私達市議会議員は個々の資質・品位の向上はもちろん、市政の監視役としての議決責任、市民への説明責任を議会全体として果たしていかなければなりません。副議長は、議会の代表者であり会議全体をまとめる議長の補佐、場合によっては代理と務めるとともに、議長の代理として様々な会議への出席、近隣市町議会との調整、連携等の役割もあると認識しています。また、議会改革の推進や議会だより編集などのオブザーバーという立場も担うなど様々な役割を果たす必要があります。

私は、2期8年の中で、議会だより編集委員会、議会報告企画委員会の委員長、議会運営委員会副委員長、政策討論会副座長、議会改革推進委員会副委員長など様々な委員会の委員長、副委員長を経験し、それぞれの委員会のこれまでの活動経緯、今後の課題を把握させて頂いております。また、外部団体への所属や研修で培った人脈でここ数回の議員研究会の講師も提案ご紹介して参りました。

当市議会は県内議会初と言われた議会基本条例が策定されて10年以上が経ちます。各期、市民福祉の向上に向けて、市民に信頼される議会、開かれた議会を目指し、市民参加、情報公開、機能強化の面で議会活動の充実を図って参りました。しかしながら、今や議会基本条例を制定した地方議会はほぼ半数となり、多くの先進議会は、議会改革第2ステージへと進んでいます。基本条例は形式から実質を求められ、議員個々の活動はもちろんのこと議員、事務局職員、市民が一体となるチーム議会としての活動を充実していくことが求められています。菊川市議会も第2ステージに進むべきときです。副議長として主に4点の改革を提案、実施していきます。

1つめ、チーム議会をまとめる議長のリーダーシップが発揮できるよう議会運営の目標とその実現のための行程表4年間、2年間、毎年の計画策定の補助をして参ります。そのために、決算を重視し、予算へ反映できる計画性のある常任委員会活動の推進、その他各委員会の課題と役割を見直した政策サイクルの検討を行うことが必要となります。

2つめ、市民への議会活動の理解を得ることが今まで以上に求められます。タブレットも導入され、その活用も推進しなくてはなりません。市民への広報広聴に力を入れるためには、広報広聴常任委員会設置が必要です。議会独自のホームページやfacebook ページ、ラインの活用、委員会のYouTubeでの生中継、政務活動費の領収証ホームページ掲載など少しでも多くの市民への情報公開を行い、緊急時にはタブレットを活用したズーム会議、コロナ禍でもズームを使った報告会など開催できるような準備をします。

3つめ、議会活動への理解を深め担い手の育成を行います。今までの子ども議会のあり方を再検討し、小学生は、議会の仕組みを学び、議場体験をする機会を作り、中学生、高校生への議会報告会、女性議会、テーマを決めた地域課題懇談会など、若い世代や地域の方々、地域の団体や企業との対話をする場、意見を聴取する場を充実させて議会活動への市民意見の反映、市民意識の向上を図ります。

4つめ 議員研修の充実を図り、個々の議員のスキルアップ、条例制定までできる政策提案議会を目指します。そのための政務活動費の見直し、実費精算方式の検討を行います。

他にも市民サポーター制度、議会のひろば市民モニター制度、議会業務継続計画BCPに基づく防災訓練の実施、分科会委員会スケジュールの再考など新たな議会改革推進委員会も立ち上げ、少数意見も反映できる議会とし、議会の役割と二元代表制の趣旨を理解した上で、議会活動のさらなる充実を図り、議長を補佐する副議長の職を全うしていきたいと考えております。

以上、副議長立候補表明の演説とさせていただきます。